採用年度	平成 26 年度
お名前	益田 時光
派遣期間	平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 2 月 27 日
領域/分科/細目	農学／農芸化学／応用微生物学
派遣国	オランダ
受入機関名	University of Groningen
受入機関部局名	Department of Genetics Groningen Biomolecular Sciences and Biotechnology Institute
研究概要	バクテリオシンは細菌が生産する抗菌性のペプチドである。本研究では、その中でもランチビオティックと呼ばれるグループはその構造中に特殊な翻訳後修飾を有しており、その高い安定性と抗菌活性により、医療や食品保存の観点から大きな注目を集めている。本研究では、このランチビティック修飾機構を用いた新奇ペプチドの創製を目指し、細菌を用いた In vivo におけるペプチド修飾機構の構築を目的として研究を行った。
派遣前の準備についてのアドバイス	私の場合は、申請の時点で受け入れ研究施設にてポスドクとして雇われており、すでに一年半ほど研究を行っていたこともあり、滞在許可の申請や受け入れ先との調整等については問題なくすませることができた。ただ、それ以前の初めてオランダへと渡るときのビザの申請時には手続きの遅延等があり、2週間で済むと言われていたものが1ヶ月かかってしまい、結果として出発が2ヶ月も遅れてしまうこととなってしまった経験がある。この時は、ビザの発行だけでなく、受け入れ先の大学にて滞在許可証の申請処理が遅れるなどのトラブルもあった。また、ヨーロッパ特有のこととして、夏休み等を個人的に自由に、2、3週間ほどとるため、担当者等と急に連絡が取れなくなることなども考えられるので注意しておいたほうが良いでしょう。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	滞在先の国によって生活事情は様々と思うので、個人的にはオランダにおける生活についてのアドバイスをさせてもらう。例えば、現地にて携帯電話や賃貸契約の書類等がオランダ語で書かれており、その部分を見落としていると、解約時の手続き等で必要以上に違約金を支払うことになる可能性がある。例えば、オランダでは退去を大家に知らせるのは1ヶ月前までに知らせれば良いことになっているが、私の契約書には2ヶ月前までと記載されており、それを真に受けて1ヶ月分余分に払うことになった。後でオランダ人の友人に聞いてわかったのですが後の祭りでした。このようなことは我々外国人には対処しづらいので、ぜひ現地の同僚らに相談して、できれば同席してもらうなどした法が良いでしょう。
派遣先での生活の様子	オランダは経済的にも安定しており、治安も非常に良かった。日常生活において危険なことなどは全くなかった。また、オランダ人の大半が英語を堪能に話せるので、ほぼすべての場面において英語で対処できる。なので、オランダは他のヨーロッパの国と比べても特に外国人が住みやすい国であると言える。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	日本学術振興会の海外特別研究員事業の支援によって、研究計画書にて私が描いた自身の挑戦的研究を、世界トップレベルの研究室にて何不自由することなく遂行することができたことを深く感謝しています。本支援のもと過ごしたオランダ、ヨーロッパでの研究生活は私の視野をより広げ、思慮を深め、研究者としての成長を大きく促すものでした。また、研究を含め、日々の生活の中で育んだ周りの人々との繋がりは、研究者同士のネットワークの構築という点だけでなく、私の人生にとってかけがえのないものとなりました。